

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>ものが多い。「五時間も…あきてしまった。」との関連で答えた誤りと思われる。正答率55%。</p>	
<p>観点⑤（文・文章を読む）について          観点全体の正答率は、54%であるが、特に「段落の区切り」（29%）「連体修飾語」（32%）は低い。          「段落の区切り」では、段落を構成する文と文との関係を正しく押さえる指導をしていく必要がある。その場合、指示語・接続語に留意して、文と文の前後関係・条件関係・因果関係を見いだすようにすることが大切である。          「連体修飾語」では、文や文章を詳しく読むなかで、「どんな一何」を的確に押さえる指導を心掛けることが大切であると思われる。</p>	
観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>⑥ 文・文章を書く          一、句読点、かぎを正しくつける          正答率は62%と高いが、無答がかなり目立った。</p>	<p>。 句読点のつけ方の指導と同様、会話文のかぎや句点のつけ方についても、しっかりと身につけさせたい。</p>
<p>二、文章の中で指示語・接続語を正しく使う          (1) しかし (40%)          (2) それは (50%)          (3) こんな (43%)          (4) そして (42%)          上記の四問が、観点の正答率を下まわっている。誤答は、(1)「そして」、(3)「すると」「あの」、(5)「すると」としたものが多く、指示語・接続語の働き、何を指すか、どんなつながり方をしているのかの理解が良くないことがうかがえる。(4)は67%である。</p>	<p>。 読む指導で行う「さすもの」、「つなぐもの」の理解が、書く活動に転移するように、読むと書くの関連を図った指導を強めていく必要がある。また、短文作りや作文指導などで、取り立てて指導することも考えなければならぬだろう。</p>
<p>三、言葉を続けて文をつくる          「ギーギーと」うめき声をたて (60%)、大あわてに「あわてて」 (30%) と、正答率</p>	<p>。 前後の文脈から、どういうことを言おうとしているのか見当をつけ、文における主語と述語の関係、修飾・被修飾の関係を押さえた</p>